

外部評価書例

江津市内の小・中学校の外部評価書例です。それぞれの学校では、自己評価をもとに外部評価を行い、次年度の改善策を検討し、具体的な活動を示しています。「評価」欄には、各学校で定めた基準に基づいて、A(十分達成)、B(概ね達成)、C(改善が必要)、D(基本的な見直しが必要)の4段階で評価しています。詳細は、各校のホームページまたは義務教育課ホームページをご覧ください。

小学校の例

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標	自己評価		外部評価		改善策				
					達成状況	評価	考察	評価					
教育課程の編成・実施	教育課程の編成・実施	本校の課題を的確に把握し、適切な教育課程を編成・実施する。	本校の実態を把握しながら、教育課程の編成・実施を円滑に行う。	自己点検表(別紙)により客観的に点検し、平均点が4段階で3.8以上である。	自己点検表(資料1-1)により客観的に点検し、平均点が4段階で3.7であった。 ・各項目、概ね目標達成をしているが、各教科の枠を越えて、読解力向上を目指した取組について、落ち込みが見られる。	B	・読解力、図書館利用、コンピュータ活用、特別支援教育等への対応で、今後の取組を期待する。	B	・教育課程の編成・実施を円滑に行うために、計画、実施の状況を定期的に確実に点検する。 ・読解力向上を目指した取組を強化する。 ・図書館利用、パソコン利用に関連した教育課程の編成を強化する。				
										(1)分かる授業の創造に努め、豊かな学力の定着を図る。	・学力調査の結果について分析し、課題を明らかにした。その課題解決に向けた具体的な取組は今後の課題である。 ・児童アンケート「先生は、授業の時のいろいろな工夫をしてわかりやすく教えてくれる。(87%)」のように、「わかる授業」を目指して取組んでいた。 ・全校で、毎月、同時に漢字及び計算テストを実施し、学年単位で目標値を設定し、その達成を目指した。 ・教員の自己評価では、「個別指導や少人数授業」に力を入れた授業実践に努めた。(65%)「補充的な学習や発展的な学習を取り入れた指導に力を入れた。(65%)」であり、指導方法の工夫改善には、まだ課題が残る。	・教材研究に力を入れ「わかる授業」を目指して実践され、学習の成果については、児童のアンケート報告や掲示物からも伺える。 ・個別指導や少人数授業、補充的な学習については、まだまだであるように見える。 ・児童の学力評価も、その向上のための取組み方がどうであったかがポイントと考えたい。	・学力調査の結果を生かし、学力向上に向けた具体的な手立てを推進して行く。 ・「わかる授業」を目指した授業改善に取組む。 ・豊かな表現力を培うための具体的な手立てを明らかにする。 ・ともに学ぶ力を高める学習集団づくりを目指す。 ・個に応じたきめ細かな指導を徹底する。明確なねらいを持った教育活動の企画と実践に努める。
										確かな学力の推進	①豊かな表現力を培い、ともに学ぶ力を高める学習集団づくり。 ②少人数授業や特別支援の取組により、個に応じたきめ細かな指導。 ③明確なねらいを持った教育活動の企画と実践。	学力調査の結果を分析し、学力向上に生かす手立てを明らかにする。 「わかる授業」に取組む。 児童アンケートで、肯定的評価80%超を目指す。 漢字の読み書き、四則計算の力を高める。 個別指導や少人数授業に力を入れる。 補充的な学習や発展的な学習を取り入れた指導に力を入れる。	実践記録を公表できる。 ・教員の自己評価「地域の教育資源を生かした単元を工夫した授業実践に努めた。(88%)」から、「体験的な学習を重視する。(88%)」から、ふるさと教育に対する取組は評価できる。 ・5年生が代表で参加する「ふるさと教育フェスティバル」に向けた取組は、最大評価ができる。 ・児童アンケート「自分たちが住んでいる町や江津市のことを勉強することは、楽しい。(65%)」「自分たちが住んでいる町や江津市には、よいところがたくさんある。(67%)」から、ふるさとへの良さを感じ、愛着や誇りに思うことができる教育活動について、課題が残る。
ふるさと教育	地域の「ひと、もの、こと」を積極的に活用した教育活動を工夫する。 「自分」や「人」のふるさとを大切にしようとする心情と態度を育てる。	地域の教育資源を生かした単元を工夫する。 体験的な学習を重視する。 ふるさと教育フェスティバルに向けた取組に力を入れる。 児童にとって、ふるさとへの良さを感じ、愛着や誇りに思うことができる。	実践記録を公表できる。 体験的な学習の実践記録を公表できる。 フェスティバル展示のパネルやステーション発表に向けた取組を公表できる。 児童の感想、作文、アンケート等から推察する。	・計画に基づいた体験学習に興味を持ち、ふるさと探求に取組んだ様子が学習発表に表れていた。 ・「ふるさと」「自分の住んでいる町」を愛する心を育てることは素晴らしいことと思えますが、大切なものと思います。 ・ふるさと教育フェスティバルは素晴らしい。	・地域の教育資源を生かした単元について、年間指導計画を確立する。 ・体験的な学習をさらに重視する。 ・児童にとって、ふるさとへの良さを感じ、愛着や誇りに思うことができる教育的な活動の実践研究を行う。								

中学校の例

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標	自己評価		外部評価		改善策
					達成状況	評価	考察	評価	
豊かな人間性・社会性	豊かな人間性・社会性	基本的な生活習慣の定着と生徒の「自己肯定感」を育む生徒指導の充実	全校態勢での生徒指導の充実	生徒指導の全教職員による推進態勢(教員)	教職員自己評価で肯定的評価が61.8%。	A	教職員間のチームワークを大切に取組んで欲しい。	A	生徒会活動による生徒の主体的な点検活動を推進する。
			一人一人の生徒の良さや意欲を引き出す個に応じた指導の充実	挨拶・交通マナー・服装・礼儀の状況(教員)	教職員自己評価で肯定的評価が54.5%。	C	組織的・継続的な指導が必要、自転車のマナー・服装については改善が必要。特に自転車マナーは模範校に恥じない登下校をするよう指導が必要である。	C	家庭との連携を密にして、心を育てる指導を推進する。
			一人一人の生徒の良さや意欲を引き出す個に応じた指導の充実	欠席者・遅刻者の1校時開始までの把握	毎朝、職員が生徒玄関で確認し、職員朝礼で出席者、遅刻者、欠席者を報告。	A	継続的に取り組んで欲しい。遅刻常習者は家庭との連絡を密にして取り組んで欲しい。	A	全職員での情報収集、情報共有の意識を持って指導に当たる。
			生徒の「自己肯定感」を育む生徒会活動等諸活動の充実	学期に1回の教育相談週間の実施状況	2学期・3学期(2回)に教育相談週間を設け、実施。	B	毎学期実施して欲しい。	B	毎学期の教育相談を計画的に実施する。
			生徒の「自己肯定感」を育む生徒会活動等諸活動の充実	生徒の自主的な生徒集会の場を10回以上	2学期末までで、人権集会や生徒総会、全校集会等を含め10回開催。	A	さりげなく褒めてやる、任せる、達成感をしっかり持たせる等の取組をやって欲しい。体育祭、文化祭などの学校行事への参加が主体的に行われて学校は楽しいとの肯定的評価がされている。これが、他の学校生活(特に学習面)に効果をもたらすように願う。	A	学級図書を充実するなど、読書に親しい環境を整える。
			生徒の「自己肯定感」を育む生徒会活動等諸活動の充実	生徒評価の「積極的な学校行事への参加」の項目(生徒)	生徒アンケートで肯定的評価90.5%。	A			
			生徒の「自己肯定感」を育む生徒会活動等諸活動の充実	体育祭アンケートの項目(地域・保護者)	地域・保護者アンケートで肯定的評価が73.3%。	B			
			生徒の「自己肯定感」を育む生徒会活動等諸活動の充実	朝読書の実施状況(生徒)	生徒アンケートで肯定的評価が69.5%。	B			
			生徒の「自己肯定感」を育む生徒会活動等諸活動の充実	人権集会の実施状況(教員)	教職員自己評価で肯定的評価が90.9%。	A	保護者への一層の啓発や参加への呼びかけが必要。効果の把握も必要。人権・同和教育が教育活動の基盤となっているので、友だちを大切にしていると思うが、小さいじいなど見逃さないよう気を配って欲しい。	A	いのちいきいき通信等で保護者や地域への啓発を続けたい。PTAとの連携を行って、動員を図りたい。
			生徒の「自己肯定感」を育む生徒会活動等諸活動の充実	保護者評価の「思いやりの言動」の項目(保護者)	保護者アンケートで肯定的評価が43.3%。	C			
キャリア教育の充実	キャリア教育の充実	望ましい職業観・労働観の確立	同和教育における校内推進体制の充実	同和教育の授業公開の実施状況(教員)	同和教育に視点を当てた授業を3回実施。(2学期末時点)	A	研修会、授業公開ともよく実施されている。	A	研究部のわかる授業と連携しながら、今後も継続して実施したい。
			同和教育の研修の実施状況(教員)	研修会を3回実施。(2学期末時点)	A				
			職場体験学習の訪問先数(10箇所以上)	1月末で職場体験学習の訪問先を17箇所確保。	A	個々のニーズに応じて職場の開拓ができている。今後も引き続き行って欲しい。	A	保護者による職業講話を実施するなど、保護者が生徒に職業への「思い」を伝えることができる場面を設定する。	
キャリア教育の充実	家庭教育アンケート調査の項目(保護者)	保護者調査(家庭教育力調査)で肯定的評価が66%。	C	家庭の話し合いをしっかりと欲しい。学校から保護者への啓発もしっかりして欲しい。子どもがめざす将来像をイメージできるような指導が必要。	B				

参考文献等

- 「学校評価ガイドライン」(文部科学省、平成18年3月)
- 「島根の学校評価システム」(島根県教育委員会、平成16年12月)
- 文部科学省 学校評価ホームページ
(<http://www.mext.go.jp/a-menu/shotou/gakko-hyoka/index.htm>)
- 島根県教育庁義務教育課ホームページ (<http://www.pref.shimane.lg.jp/gimukyoku/>)